



お店の外観

## 最高の材にこだわって 自分の好きな家具を作る

木彩工房

店主 小島 嘉則 さん

笑顔で迎えてくださった。店主の小島さんは職人でありながら、とても気さくだ。それもそのはず、以前は大川の大手家具店で営業職だった。二〇〇八年に木彩工房を開店。デザイン、制作、販売まですべて一人でこなす。無垢材を使う、木組家具の店。クリエティブ、質感の良い家具。自らを「木工屋」と呼ばれる。

材質にはこだわっている。十年、二十年と永く使っていた家具には、最高の材が必要と考えているからだ。店内には、厳選された一枚板、

日本の銘木、海外の珍しい材などが並んでいる。この取材の翌日には、仕入れのため岐阜に出張予定になっていた。全国をレンタカーを借りて回る。

小島さんが作る家具は、釘やだぼを一切使用しない、無垢の木組家具。すべて独学。通し蟻組、蟻型追い入れ接ぎ、送り寄せ蟻棧、吸い付き蟻組、井桁組と言った技法を使う。「一枚板は必ず反ります。」と言われる。それをがっちりとは強固にするのがこれらの技法。それにいろいろな天然オイルを調査して、天然木の美し





ショールーム



独創的なデザインの家具の数々



様々な蟻組の技術



さを引き立てる。「顧客の家に  
出向いて、部屋の雰囲気にな  
合わせて色を決めることもあ  
る」そうだ。  
独学で学んだ。ただ欠けた  
部分があった。それは職人が  
持つ微妙な感覚。全国の職人  
たちを訪ねた。広島のある職  
人さんとは親しい関係となっ  
た。「忌憚なく何でも教えて  
いただきました。実はその方  
も独学で職人になった方。そ  
れに母親から常々、技術は若  
い方を育てるため、何でも教  
えなさいと諭されていたそう  
です。本当に勉強になりました。  
」今も交流がある。

独創的なデザイン。そして  
天然木が持つている、穴、木目、  
ひびを長所とするこだわりが  
ある。  
どのように思いつくのだろ  
うか。尋ねてみた。「寝る前  
の1時間はノートを開き、集  
中して考えるようにしていま  
す。思いついたことを書き留  
めるのです。何も浮かばない  
こともありますけど……。五  
年間欠かさずに続けていま  
すね。」これを聞いて、ある小  
説家が、「アイデアが出なく  
ても、少なくとも三十分だけ  
はタイプライターの前に座  
る」と書いていたのを思い出

した。こうした点は、創造的  
な作業に必要な要素なのだろ  
う。もちろん「関係のない作  
業の際、突然降ってくること  
もある」そうだ。  
訪れるお客は、市外が九割。  
福岡市内が七割、北九州が二  
割、そして地元が一割。ネッ  
トや口コミで訪れる。お客に  
は営業職で鍛えた、分かりや  
すい言葉で説明する。決定率  
はなんと五割だそうだ。お客  
の半分は商品を購入もしくは  
制作を予約する。商品の魅力・  
グレードの高さを示している  
ようだ。  
たくさん売れるつもりはない。  
どちらかと言えば商売気がな  
い。暮らせれば良い。それよ  
りは、「自分の好きな家具を  
作り続けたい！」という思い  
が強い。  
夢は「ドイツやイタリアの  
展示会に出品すること。そし  
て格調高いヨーロッパの家具  
に肩を並べる家具を作る事だ  
す」と話される。  
休みは正月一日だけ。午後  
一時から五時ぐらいはお店に  
いるそうだ。一度訪れてみて  
はどうだろうか。